

岬龍一郎著「超訳 論語 自分を磨く 200 の言葉 」PHP 文庫、PHP2009年6月17日刊を読む

孔子という人物

1. 『論語』の主人公である孔子とは、どのような人であったのか。簡単に触れておこう。
2. 孔子は紀元前 551 年(一説によは前 552 年)、周王朝晩年の魯という国で生まれた。名前を丘は、字は仲尼。祖先は宋の重臣であったという。父親が早くに亡くなったために母親の手一つで育てら、貧しい幼年時代を過ごした。20 歳のころ、魯の委吏という倉庫係の役人として仕えた。
3. 当時の中国では、「王」の称号を持つのは周だけで、魯などの諸侯は「公」という称号と領土を周王からもらっていた。だが、周王が力を持っていたのは紀元前 8 世紀の初めごろまでで、それ以後の春秋時代は下剋上の世の中となり、魯でも桓公の子孫である孟孫氏、叔孫氏、季孫氏の三桓氏が力を持つようになっていた。
4. 孔子は下級役人として長い下積み生活を余儀なくされるが、古典に詳しく、「礼」を知る者として少しずつ認められ、門弟も集まり始めた。やがて 52 歳のとき、どうにか大司寇(司法長官)となった。この期間が役人としての絶頂期である。乱れた世を直すために、三桓氏の勢力を抑えようとのクーデターに加担したが失敗。やむなく亡命するはめになり、56 歳から諸国放浪の旅が始まる。
5. この間 13 年。8 カ国を「徳」を説いて歩いたが、いずれも仕官するには及ばず、69 歳のとき再び故郷に戻った。そしてそこで“孔子学園”を開き、74 歳で他界するまで門弟たちを教授し古典にいそしんだのである。
6. この間、魯の国の歴史を綴った『春秋』をまとめ、『詩経』を編纂し、昔の君主や大臣の言葉から名言を選んで『書経』をまとめている。そして、この 3 つに『易』『礼記』を合わせたものを「五経」といい、「四書」(『論語』『孟子』『中庸』『大学』)とともに儒教の重要な教典となっている。

P8 ~ 10

[コメント]

孔子の教えを伝える「論語」を読むときに、孔子の生涯を知るとはとても意味がある。なぜならば、「論語」に示された一語一語は孔子の個人的な「体験」を「経験」にまで止揚、昇華させ、後世の人々に役立つまでにまとめ上げたと考えるからだ。このような形でまとめられた「論語」を毎日の生活で大いに活用したい。